

総務常任委員会視察報告書

総務常任委員会委員長 城 處 裕 二

1 日 に ち	令和5年10月4日（水） 13時30分～15時30分
2 視 察 先	兵庫県三田市
3 参 加 者	委員長：城處裕二 副委員長：寺島芳枝 委員：獅子野真人、葉狩拓也、成田康弘、柴田雅也、石田浩司 情報課長：山崎興一 議会事務局長：河地孝彦
4 調 査 内 容	「さんだ里山スマートシティ」について
5 所感、主な質疑の内容、提言事項、課題等	<p>三田市は、兵庫県の南東部に位置し、神戸市街地から六甲山系を越えて北へ約 25 km、大阪から北西へ約 35 kmの圏域にあります。南東部には市街地、農耕地のある三田盆地が開けています。市の西部から南東部にかけて武庫川が貫流、肥沃な農地を潤し、豊かな穀倉地帯となっています。</p> <p>今回のコロナ禍で、大阪・神戸から適度な距離感にある当市は、リアルとリモートのハイブリッドな働き方ができる最適な立地であることを再認識。ICT・IoT・AIなどのデジタル技術の戦略的な活用とデータ利活用により、「市民中心で持続可能な課題解決を行うスマートシティ」に取り組むことにより「市民一人ひとりが幸せを実感しながら住み続けられるまち三田」を目指しています。</p> <p>【主な質疑内容】</p> <p>さんだ里山スマートシティ構想策定について</p> <p>令和2年10月スマートシティに取り組む旨を公表、令和3年3月『さんだ里山スマートシティ基本構想（素案）』を公表、三田市の様々な課題について、三田の特徴をふまえ、デジタル活用により産業・就労機会の創出、暮らしやすい環境の整備、人・企業を惹きつけるような魅力的なまち・三田の実現を目指す考え方を整理した。構想の策定にあたっては官民共創・市民参画を推進、市内外の企業や団体に対して会員を募り運営委員会や会員の意見交換会などで様々な意見を募集、18歳以上の市民3000人を対象に「さんだ里山スマートシティに関するアンケート調査」を実施、その他インターネットを活用したアイデア募集を行った。こうして取り組みの方向性として「市民生活の質の向上」「都市機能の最適化」「官民共創の基盤の構築と強化」「市役所のスマート化」の4本柱を定めた。</p> <p>行かなくて良い市役所</p> <p>オンライン申請の拡大推進を目指し、マイナンバーカードを活用した申請を本格化（戸籍謄本・抄本・住民票の写し・身分証明書など）、自宅でオンライン申請し郵便で届くサービスを開始した。</p>

「行かなくてよい市役所」を目指した取り組みの一環として、民間企業と連携し、予約制で市職員とオンライン相談ができる「遠隔相談窓口サービス」の実証実験を実施した。技術的な点について問題は無いが、市民に浸透させ利用を促す点については課題を残した様子であった。

デジタルディバイド対策

市民生活の質の向上を目指しスマホ初心者・中級者向けに、地域のショップと連携し「初めて触るスマートフォン体験講座」を企画・開催。また地域のショップのスマホ教室の実施情報を発信。予算は0円。上級者向けには、趣味の仲間や自治会活動の中で、スマホの使い方を教えられる「スマホサポーター」を養成するための講座を開催し持続可能な社会の実現を目指す。地域情報共有アプリ「ためまっぷさんだ」を運用、地域イベントや催し、地域の魅力・情報を発信している。「みんなで利用できるプラットフォーム」にするため投稿できる組織や団体を順次拡大中である。

【所感、提言事項等】

三田市は生涯学習施設としての公民館は無く、貸館業務を行える市民センター（地区事務所）が市内10か所にあるとのことであった。これらを最大限活用し上記のデジタル推進と合わせて、市民サービスの向上と業務効率化の双方にメリットのある「行かなくて良い市役所」の実現を目指している。視察の目的上この市民センターの機能について深堀は出来なかったが興味深い点ではある。一口にDX推進と云っても地域性や特性を活かした技術の利用が必要であると感じた。本市としてはあらゆる事例を調査、研究しながら本市に適合するシステムの構築に努めて頂きたいと考えます。

6
写 真 等



三田市役所前にて

※視察先1件に1枚作成すること。